

## 会議録

会議の名称	第9回移動支援のあり方を考える勉強会
開催日時	令和元年7月25日（木）午後7時から8時22分まで
開催場所	柳沢第三市民集会所
出席者	<p>【委員】稲垣会長、土谷委員、鈴木委員、町田委員、井上委員、菊地委員、長谷川委員、金成委員、大安委員、島田委員、金子委員、絹川委員、佐野委員、神崎委員</p> <p>【事務局】長塚都市計画課長、広瀬主査、坂本主査、亀井主事</p>
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 移動支援の実証実験に向けたアンケート調査結果等について</p> <p>3. 移動支援の実証実験の中間報告と今後の対応について</p>
会議資料の名称	<p>資料1：移動支援の実証実験に向けたアンケート調査 調査結果【概要版】</p> <p>資料2：移動支援の実証実験の中間報告</p> <p>資料3：移動支援の実証実験の今後の対応</p> <p>参考資料1：移動支援の実証実験に向けたアンケート調査 調査結果</p> <p>参考資料2：移動支援の実証実験に関する説明会におけるご意見、ご質問</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>1 開会</u></p> <p>○会 長： 実証実験が始まって1ヶ月ほど経過した。住民の皆様へのアンケート調査の結果と実証実験の実績の結果を踏まえた今後の対応について、事務局より説明いただき、皆さんと議論したいと考えている。</p> <p><u>2 移動支援の実証実験に向けたアンケート調査結果等について</u></p> <p>○事務局</p> <p>【説明の要旨（資料1、参考資料1、参考資料2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを大型連休に実施したことなどから、回収率が低い。</li> <li>・回答者の約8割以上が65歳以上である。</li> <li>・市民のニーズは、定時運行、運賃の値下げである。</li> </ul> <p>○会 長： アンケート結果について、報告があったが何か質問等はあるか。</p> <p>○会 長： 特に無いようであれば次の議事に進めさせていただく。</p> <p><u>3. 移動支援の実証実験の中間報告と今後の対応について</u></p> <p>○事務局</p> <p>【説明の要旨（資料2、3）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内の各部署と連携し、地域活動団体への周知やポスターなどの設置を行った。</li> <li>・利用実績が想定より少ないことから、予定していた運行期間より短くなる可能性がある。</li> <li>・対象地域内の約6000戸に実証実験について再周知を行う。</li> <li>・実証実験の試乗券の配布、小学生以下の世帯を対象とするなど、対応できることはやっていきたい。</li> </ul>	

- 会 長： 実際に運用されているタクシー事業者からの補足の説明や現行の課題について、ご意見をいただきたい。
- 委 員： 乗車場所に興味がありそうな人はいるが、現行はカードを持っていないと利用できないことから、その場で乗れるような仕組みがあるといい。
- 委 員： 介護施設の方と話す機会があるが、付き添いの方も乗車できることが周知されていない印象がある。また、武蔵境通りまでのニーズがある。  
西武柳沢駅ルートは、150円で乗れることもあり、アンケートのニーズと合致することから、あとはきっかけではないか。
- 会 長： 現在のカードの発行枚数が少なく、1日あたりの乗車人数が多くても3人程度であることから、今の状況では持続可能な運行は難しいと判断できる。  
移動支援を必要としている人に正しい情報が伝わっていない可能性やニーズに合っていない可能性がある。もしくは、今の交通手段と比べて便宜性、経済性で選ばれていないことも考えられる。  
先ほども話があったが実証実験を利用するのにカードの発行が必要であることなど柔軟性にかける面もある。委員の皆様から意見、質問、提案などをいただきたい。
- 委 員： 田無駅南口ロータリーができ、発着場所として使用できれば、田無庁舎まで行かなくて済む。
- 委 員： 実際に移動支援を利用して田無駅で買い物をしてみたが、買い物袋を持って田無庁舎まで行くと、やはり遠く感じた。田無庁舎でドライバーの方が順番表を見に来ることも抵抗がある。  
実証実験のタクシーと一般のタクシーの区別が一目で判別できない。
- 委 員： お出かけ支援通信の情報料が多すぎる。もっと簡潔にし、かつ、イラストなどを用い、付添いの方、ベビーカーや車いす利用者も乗車できることをアピールした方がいい。説明書ではなくもっと、宣伝チラシのようにしてほしい。  
時刻表という形態が採れないことは理解するが、15分毎にはその乗車場所に来るなど、ある程度の目安がほしい。いつ来るかわからないものを待つのは辛い。
- 委 員： 乗車場所に曜日を間違えて来た方がいた。南町地区会館は、都合により乗車場所の位置が変わった。事前に近所の方と調整が必要だったのではないか。近所の方と話した際、はなバスと同等の金額にしてほしいとの声もあった。田無駅の北口で買い物をした後に田無庁舎まで行かなければならないことも支障となっていると感じる。
- 委 員： 実証実験は乗合型を想定しており、一人での利用を想定していない。行きは実証実験を利用し、帰りはご近所の方と一緒に田無駅から一般タクシーを

利用して帰れば、時間も早いし、3人以上で利用すれば実証実験よりも安く乗ることが出来る。西武柳沢駅ルートについては、運賃が150円であることからはなバスと同額となる。

○委員： 西武柳沢駅の乗車場所がわかりづらい。

○委員： 西武柳沢駅ルートを利用したが、要件を済ませて帰るだけであれば待ち時間も短く、とても快適に利用できた。しかし、運行日に合わせて予定を組まないといけないため、利用にハードルを感じる。

実際に高齢者の方にお勧めしてみたが、シルバーパスを持っている方は、運賃を払わなくて良いため、路線バスを利用する言っていた。現在の利用対象者に限らず、全年齢に対象を広げてみたらどうか。

○会長： 資料3にも記載はあるが、無料試乗券を活用して利用していただき、運賃を支払うだけの価値があるか理解してもらう必要がある。

先ほどから意見が出ている「時刻がわかりにくい」という意見に対して、何か意見はないか。

○委員： ある程度の時間がわかっていると、それに応じて動けるので安心である。

○委員： バス事業者に聞きたいが、西東京市内の路線バスで、定時運行をしているのはどれくらいの割合か。

○委員： 西東京市内は、ほぼ定時運行である。

○委員： 踏切があるため、なかなか定時での運行はできていないが、本数を多くしカバーしている。

○委員： 健常者の方は定時制を気にするが、障害者の方など移動に制約のある方は、移動できればいいというニーズとなる。そのバランスを取るのが難しいと考えている。

○委員： 今回は利用者を増やしたいという考え方であれば、目安の時刻を設定して定着させたほうがいい。実証実験のタクシーについても、いこいなを貼るなど、アピールした方がいい。

○委員： 絶対数が少ないことが問題だと思う。解決するには周知活動しかない。最終的には1対1で宣伝していくしかない。そのためにも無料試乗券や利用対象者の拡大もいいと思う。

○委員： 乗車場所、運行日がわからないということであれば、それが目に留まるようにする必要がある。

○委員： 利用者カードの登録が148件あるのに対し、利用者数が67人と乖離が大きいことから、カード発行者に対しても追跡調査みたいなものをかけたらいかが

か。

- 委員： 8月1日に再度周知をした際に、カードを発行するために市役所に行くことをハードルと感ずることから、周知の紙の下欄に申込書を設け、実際に利用いただいた車内でカードと交換できるなどの仕組みがあるといい。
- 委員： 市報にお出かけ支援通信を折り込んでも見ていない人が多い。市報の記事として載せた方が見る可能性がある。利用対象者についても、制限を無くした方がいい。本運行の時には、利用者カードは必要がないような形にしてほしい。
- 会長： 実証実験に関する資料がわかりにくいという意見があり、周知についてもできていないことが現状である。田無庁舎の乗車場所も不便である、時刻表についても課題があるとの意見が出ている。無料試乗券の配布、利用対象者の制限の廃止についても提案いただいた。  
上記の意見について、事務局から何かあるか。
- 事務局： いただいた課題を改善するには、時間を要するものが多く、今回の実証実験の期間中に見直すというのは難しい。  
改善策としては、周辺地域への周知について改めて行うこと、一度乗ってもらうためにも試乗券を配布すること、利用者カードの手続きを簡易化することを中心に行っていきたい。  
利用者カードの登録者数は148人だが、利用実績との乖離があることから、委員の皆様の中で利用者カードの登録をしている方がいれば、お声がけいただき実証実験の周知についてご協力をお願いしたい。
- 会長： 話にもあがった利用者カードを登録している方については、事務局として追跡調査などができると考えるがいかがか。
- 事務局： 利用された方のデータがあるので、どのような形で利用啓発などができるか考えていきたい。
- 会長： 運行内容の変更だけでは難しいところがあるので、地域の力や伝達力といった担い手を増やし、事務局側もそのような視点で庁内と調整していかないと持続可能なものにはならないと考える。
- 委員： もっと利用者数を増やすためには、利用者の制限があること、曜日や時間が決まっていることから、乗りづらいとの意見が出ている。乗車場所に行くことも抵抗がある。南町地区会館の前の公園で行っている移動販売が9～10時で行っているため、その時間と実証実験の運行時間が重なるといいという話もある。
- 事務局： 実証実験の期間内で大きく変えることができないことから、試乗券等を考えていきたい。利用してもらいたいということが大きな目的であることから、委員の皆様のご近所様、お知り合いの方にお知らせいただけるよう、お

願います。

○会 長： 以上をもって本日の勉強会を終了する。

以上